



環 境 科 学 会
Society of Environmental Science, Japan

環境科学会 2022 年会

プログラム

期日： 2022 年 9 月 8 日(木)～9 月 9 日(金)

会場： オンライン開催

公 益 社 団 法 人
環 境 科 学 会

公益社団法人 環境科学会 2022年会 タイムテーブル

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場
部屋		Zoom 1	Zoom 2	Zoom 3	Zoom 4	
9月8日 (木)	9:00					
	9:15					
	9:30	シンポジウム-1 気候変動政策の転換を地域主導で進めるための体制・道具・人材 白井信雄 増原直樹 9:30～12:00	シンポジウム-2 わが国の地球温暖化対策の現状と課題 大塚直 柳憲一郎 9:30～12:00	シンポジウム-3 化学物質の環境モニタリングとリスクの評価・管理手法の今後 小林剛 高橋ゆかり 9:30～12:00	口頭発表1D-1 循環型社会 9:30～10:30 杉本賢二	
	9:45					
	10:00					
	10:15					
	10:30					
	10:45					
	11:00		口頭発表1D-2 食品の消費と廃棄 10:45～12:00 田畑智博			
	11:15					
	11:30					
	11:45					
	12:00					
	12:15					
	12:30					
	12:45					
	13:00	昼休み 12:00～14:30				
	13:15					
	13:30					
	13:45					
	14:00					
	14:15					
	14:30	シンポジウム-4 環境汚染物質の網羅的分析手法の開発状況 亀屋隆志 高梨啓和 14:30～17:00	口頭発表1B-3 事業活動と環境 14:30～15:45 松本亨	口頭発表1C-3 気候変動適応 14:30～15:45 大塚佳臣	口頭発表1D-3 ライフスタイルと評価 14:30～15:45 青木えり	
	14:45					
	15:00					
	15:15					
15:30						
15:45						
16:00		口頭発表1B-4 環境社会評価システム 16:00～17:15 藤山淳史	口頭発表1C-4 再生可能エネルギー 16:00～17:15 金森有子	口頭発表1D-4 環境活動と地域 16:00～17:00 竹内彩乃		
16:15						
16:30						
16:45						
17:00						

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	ポスター会場		
部屋		Zoom 1	Zoom 2	Zoom 3	Zoom 4			
9月9日 (金)	9:00					ポスター発表はありません。		
	9:15							
	9:30	シンポジウム-5 地域の脱炭素化:次世代エネルギーと公共調達の観点から考える 宮本拓郎 有村俊秀 9:30～12:00	シンポジウム-7 持続可能な未来都市に向けた分析・計画・実装 松橋啓介 原圭史郎 9:30～12:00	口頭発表2C-1 センシング 9:30～10:45 島崎洋一	口頭発表2D-1 分析法 9:30～10:45 亀屋隆志			
	9:45							
	10:00							
	10:15							
	10:30							
	10:45							
	11:00			口頭発表2C-2 微小粒子状物質 11:00～12:00 野呂和嗣	口頭発表2D-2 一斉分析 11:00～12:00 高梨啓和			
	11:15							
	11:30							
	11:45							
	12:00	昼休み 12:00～13:30						
	12:15							
	12:30							
	12:45							
	13:00							
	13:15							
	13:30	シンポジウム-6 脱炭素化に貢献するモビリティ革命のあり方をさぐる 加藤博和 朴秀日 13:30～16:00	シンポジウム-8 PBLとしてのSDGs 活動:継続的な活動による能力開発の評価手法の検討 杉本卓也 中口毅博 13:30～16:00	シンポジウム-9 多様な学問分野における環境科学研究の最前線 山本佳世子 岩本茂子 13:30～16:00	口頭発表2D-3 政策・国際 13:15～14:30 森田香菜子			
	13:45							
	14:00							
	14:15							
	14:30							
14:45				口頭発表2D-4 環境浄化 14:45～16:00 鈴木裕識				
15:00								
15:15								
15:30								
15:45								
16:00								
16:15								
16:30								
16:45								
17:00	表彰式・学会受賞記念講演 16:10～17:50							
17:15								
17:30								
17:45								
18:00								

※ シンポジウムの枠内の氏名はオーガナイザー、口頭発表セッションの枠内の氏名は座長です。

口頭発表（一般発表）

【1日目（9月8日）午前】

口頭発表 1D-1 「循環型社会」

D 会場（Zoom）9：30～10：30

座長：杉本賢二（大阪公立大学）

- 1D-0930 車載用 LiB の将来廃棄量の推計と二次利用の可能性
○渡邊一史（立命館大学），橋本征二（立命館大学）
- 1D-0945 Circular Economy 戦略の評価に向けたストック・フロー・シミュレータの開発
○藤井雄介，村上進亮（東京大学），小出瑠（東京大学，国立環境研究所），
山本悠久（国立環境研究所）
- 1D-1000 日本版 SSP シナリオに基づく人口変化に伴う下水道ストックの将来推計
○松代竜毅（名古屋大学），山下奈穂，蛭田有希，白川博章，谷川寛樹（名古屋大学）
- 1D-1015 経年建物 GIS データの構築と建物動体の時空間分析
○杉本賢二（大阪公立大学），奥岡桂次郎（岐阜大学），秋山祐樹（東京都市大学）

口頭発表 1D-2 「食品の消費と廃棄」

D 会場（IB011）10：45～12：00

座長：田畑智博（神戸大学）

- 1D-1045 High resolution data-driven approach for analyzing the environmental impact of diets and sociocultural dietary trends: Shift in the role of seafood as a protein source in Japan
○スチュワートヘレン，鈴木彩，中村亨，久田正樹（NTT 宇宙環境エネルギー研究所）
- 1D-1100 食品リサイクルを利用した畜産物の消費者選好の推定
○諏訪竜夫（山口大学），涂懷静（招商银行）
- 1D-1115 大学生のコンポストづくりと食品廃棄物に対する考え方：2 ヶ月間追跡調査
○袁博子，加藤尊秋（北九州市立大学）
- 1D-1130 食品ロス問題のメッセージの見せ方と反応
○沼田大輔，齋藤淳也，増田汐莉，菅原レナ，董思瑛，橋本大陸（福島大学）
- 1D-1145 家庭系食品ロス発生量の推計方法に関する一考察
○金森有子（国立環境研究所）

【1日目（9月8日）午後】

口頭発表 1B-3 「事業活動と環境」

B 会場（Zoom）14：30～15：45

座長：松本亨（北九州市立大学）

- 1B-1430 日本企業の循環経済への取組実施状況に関する一考察—SDGs 実態調査から
棚澤理奈，加藤瑞紀，小野田真二，○栗生木千佳（（公財）地球環境戦略研究機関）
- 1B-1445 都有施設における省エネ対策に関するヒアリング調査
○藤井康平（北星学園大学），片野博明，小谷野眞司（東京都環境科学研究所）
- 1B-1500 オフィスビルを対象とした PV・EV・BT 連携の有効性に関する研究
○カオリルトフィア，松本亨，藤山淳史（北九州市立大学）
- 1B-1515 都内中小規模事業所における省エネ動機に関するアンケート調査
○片野博明（東京都環境科学研究所），藤井康平（北星学園大学）
- 1B-1530 東京都の業務部門における 2030 年までの二酸化炭素排出量半減の達成シナリオの分析
○片野博明（東京工業大学），増井利彦（国立環境研究所）

口頭発表 1B-4 「環境社会評価システム」

B 会場 (Zoom) 16 : 00~17 : 15
座長 : 藤山淳史 (北九州市立大学)

- 1B-1600 **【論文賞受賞記念講演】**
木造住宅と森林の木材需給を考慮した炭素ストックのシナリオ分析
○山下奈穂 (名古屋大学), 加用千裕 (東京農工大学), 谷川寛樹 (名古屋大学)
- 1B-1615
国境炭素税を考慮したグローバル・サプライチェーンネットワーク設計 : 日本への影響
○長尾剛樹, 伊集院大將 (電気通信大学), 長沢敬佑 (広島大学), 山田哲男 (電気通信大学)
- 1B-1630
わが国の食品ロス削減による国際食料市場を通じた環境・経済・社会への影響
○棟居洋介 (東京工業大学), 増井利彦, 金森有子 (国立環境研究所)
- 1B-1645
Optimizing the Collection System of Industrial Plastic Waste by Using Machine Learning
○叢日超, 藤山淳史, 松本亨 (北九州市立大学)
- 1B-1700
損失幸福余命を用いた福島災害後の放射線被ばく, 糖尿病, 心理的苦痛のリスク比較
○村上道夫 (大阪大学, 福島県立医科大学), 尾崎章彦 (福島県立医科大学,
ときわ会常磐病院), 小野恭子 (産業技術総合研究所), 野村周平 (東京大学, 慶應義塾大学), 竹
林由武, 坪倉正治 (福島県立医科大学)

口頭発表 1C-3 「気候変動適応」

C 会場 (Zoom) 14 : 30~15 : 45
座長 : 大塚佳臣 (東洋大学)

- 1C-1430
滋賀県における適応策の進捗管理に用いるための気候変動に対する脆弱性評価の試み
○河瀬玲奈, 一瀬護, 木村道德 (琵琶湖環境科学研究センター)
- 1C-1445
気候変動適応策優先順位付けのための意思決定分析: システムティックレビュー
○天沼絵理, 藤井実, 中島謙一, 脇岡靖明 (東京大学, 国立環境研究所)
- 1C-1500 **【優秀研究企画賞受賞記念講演】**
気候変動の影響に関する地域住民の実感 一熊本県南小国町黒川温泉地域を対象として一
○岩見麻子 (熊本県立大学)
- 1C-1515
河川の活動性・軽明性印象は水害における共助防災行動を促す
○唐津遼太郎, 甲斐田直子 (筑波大学, 産業技術総合研究所),
甲斐田幸佐 (産業技術総合研究所)
- 1C-1530
行動意図に影響を与える日常生活要素の主成分分析と暗黙知の関係について
○菅原玲 (東北大学), 古川柳蔵 (東京都市大学)

口頭発表 1C-4 「再生可能エネルギー」

C 会場 (Zoom) 16 : 00~17 : 15
座長 : 金森有子 (国立環境研究所)

- 1C-1600
中部圏 3 県の再エネ率向上によるカーボンフットプリント削減効果の環境拡張産業連関分析
○佐藤一朗, 成田大樹 (東京大学)
- 1C-1615
洋上風力発電への受容性に対するナッジの効果
○小松秀徳, 窪田ひろみ, 永井雄宇, 朝野賢司 ((一財) 電力中央研究所)
- 1C-1630
洋上風力事業が地域経済に与える影響 - 長崎県五島市の事例から
○森基哉 (東京工業大学), 増井利彦, 金森有子 (国立環境研究所), 棟居洋介 (東京工業大学)
- 1C-1645
長期的な設備容量を考慮した太陽光パネルの排出動向に係る分析
○松岡賢, 村上進亮 (東京大学)
- 1C-1700 **【奨励賞受賞記念講演】**
環境経済学手法による環境・エネルギー政策の評価 : 家庭部門を中心に
○森田稔 (高崎経済大学)

口頭発表 1D-3 「ライフスタイルと評価」

D 会場 (Zoom) 14 : 30~15 : 45

座長 : 青木えり (東洋大学)

- 1D-1430 在宅勤務による働き方と生活時間の変化
○青木えり, 平松あい, 花本啓祐 (東洋大学)
- 1D-1445 ガソリン車と電気自動車の利用者が得られる QOL 比較評価
○窪田まど華 (富士電機株式会社), 林良嗣 (中部大学), 松本康 (富士電機株式会社), 竹下博之 (中部大学)
- 1D-1500 中国の環境配慮行動における社会関係資本の役割 -CGSS2010 による分析-
○夏葉城, 平尾桂子 (上智大学)
- 1D-1515 南京市における消費者のレジ袋使用の特徴
○周月, 加藤尊秋, 二渡了 (北九州市立大学)
- 1D-1530 使用済みプラスチック容器店頭回収システムの消費者選好評価
○藤山淳史, 入江杏南, 松本亨 (北九州市立大学)

口頭発表 1D-4 「環境活動と地域」

D 会場 (Zoom) 16 : 00~17 : 00

座長 : 竹内彩乃 (東邦大学)

- 1D-1600 自治体における気候市民会議 : イギリスの実例と脱炭素かわさき市民会議の比較からの示唆
○河野真貴子, 柳下正治 (環境政策対話研究所)
- 1D-1615 ローカル SDGs 達成のための都道府県別社会活動人口の推計
○中口毅博 (芝浦工業大学)
- 1D-1630 自然エネルギー大学リーグによる脱炭素化の推進
○原科幸彦 (千葉商科大学)
- 1D-1645 **【奨励賞受賞記念講演】**
環境問題の解決に向けた人材育成
○竹内彩乃 (東邦大学)

【2 日目 (9 月 9 日) 午前】

口頭発表 2C-1 「センシング」

C 会場 (Zoom) 9 : 30~10 : 45

座長 : 島崎洋一 (山梨大学)

- 2C-0930 果樹作付と土性区分のオーバーレイ解析
○島崎洋一 (山梨大学)
- 2C-0945 UAV を用いた環境保全型農業における水稻への窒素固定量評価
-比企丘陵 日向沼直下の谷津田の事例-
○後藤真太郎, 佐藤響平, 横山和成, 向高新 (立正大学)
- 2C-1000 低頻度・中分解能人工衛星データと自作固定翼機材の可能性
○松村寛一郎 (東京農業大学), Stanley Anak Suab, Ram Avtar, Hitesh Supe (北海道大学), 杉本賢二 (大阪公立大学), 一ノ瀬俊明 (国立環境研究所)
- 2C-1015 東京都における日射量と地表面温度の関係に関する考察
○白木洋平 (立正大学), 一ノ瀬俊明, 平野勇二郎 (国立環境研究所), 大西暁生 (横浜市立大学)
- 2C-1030 リモートセンシング分野における都市熱環境研究のミスリード
○一ノ瀬俊明 (国立環境研究所, 名古屋大学)

口頭発表 2C-2 「微小粒子状物質」

C 会場 (Zoom) 11 : 00～12 : 00

座長：野呂和嗣 (静岡県立大学)

- 2C-1100 ナノマイクロプラスチックの科学的不確実性を伴うリスクに対する法的制御の可能性について
-ナノ領域の廃棄物に関する日本の現状と課題を事例に-
○中山敬太 (早稲田大学)
- 2C-1115 南極地域の環境計測における新たな試み
～昭和基地と雪鳥沢におけるバイオエアロゾル種組成変化～
○小林史尚 (弘前大学)
- 2C-1130 Fe(III)イオンとペクチンによるナノプラスチックの凝集沈殿に関する研究
○小森直哉, 森脇洋, 秋山佳丈 (信州大学)
- 2C-1145 **【博士課程学生研究奨励賞受賞記念講演】**
Photodegradation of chlorophenols adsorbed on plastics in seawater
○ハッサンエムディナズムル, 中井智司, 後藤健彦, WataruNishijima (広島大学)

口頭発表 2D-1 「分析法」

D 会場 (Zoom) 9 : 30～10 : 45

座長：亀屋隆志 (横浜国立大学)

- 2D-0930 撥水スプレー剤に含まれる POPs 関連フッ素化合物の実態調査
○齋藤隼輝 (横浜国立大学), 王斉 (静岡県立大学), 松神秀徳 (国立環境研究所), 三宅祐一 (横浜国立大学)
- 2D-0945 拡散型パッシブサンプラーを用いた揮発性有機化合物の個人曝露評価のためのサンプリングレート推算法の検討
○高橋佑果 (横浜国立大学), 王斉, 雨谷敬史 (静岡県立大学), 福島靖弘, 鈴木義浩 (柴田科学株式会社), 三宅祐一 (横浜国立大学)
- 2D-1000 **【優秀研究企画賞受賞記念講演】**
パッシブサンプラーを用いた揮発性有機化合物の個人曝露量の予測手法の開発と応用
○王斉 (静岡県立大学), 高橋佑果, 三宅祐一 (横浜国立大学), 徳村雅弘, 雨谷敬史 (静岡県立大学), 福島靖弘, 鈴木義浩 (柴田科学株式会社)
- 2D-1015 シリコンリストバンドを用いたパッシブ法における多環芳香族炭化水素類とそのハロゲン化誘導体の物質存在状態別の捕集速度への影響
○田川瑛梨 (横浜国立大学), 多田智彦, 王斉, 雨谷敬史 (静岡県立大学), 三宅祐一 (横浜国立大学)
- 2D-1030 **【論文賞受賞記念講演】**
イミダクロプリド-ジオール体((N-(1-((6-クロロピリジン-3-イル)メチル)-4,5-ジヒドロキシイミダゾリジン-2-イル)デン)ニトラミド))の実環境試料からの検出と急性毒性評価
○橋本扶美 (いであ株式会社), 高梨啓和, 中島常憲, 上田岳彦, 門川淳一 (鹿児島大学), 宮本信一, 石川英律 (いであ株式会社)

口頭発表 2D-2 「一斉分析」

D 会場 (Zoom) 11 : 00～12 : 00

座長：高梨啓和 (鹿児島大学)

- 2D-1100 GC-MS AIQS-DB 分析を活用した河川水中未規制有機汚染物質のスクリーニング
○根本幸弥, 亀屋隆志 (横浜国立大学)
- 2D-1115 保持時間と質量スペクトル類似度による 1466 種半揮発性有害物質の誤同定検証
○清水大佑, 亀屋隆志 (横浜国立大学)
- 2D-1130 環境リスク懸念物質の GC-CL-MS/MS による分析
○大高悟, 亀屋隆志, 根本幸弥, 寺岡沙紀 (横浜国立大学)
- 2D-1145 パキスタン・パンジャブ平原シャニオット地域の地下水中の微量元素組成の特徴
○吉田充夫 ((一社) 国際環境協力ネットワーク), Naseer AhmadMirza (Nusrat Jahan College)

口頭発表 2D-3 「政策・国際」

D会場（Zoom）13：15～14：30

座長：森田香菜子（森林総合研究所）

- 2D-1315 海洋利用の現状および海洋生態系との相互作用に関する課題
○鈴木彩，小山晃，中村亨，久田正樹（日本電信電話株式会社）
- 2D-1330 南極海保全レジームにおける制度間相互作用
○大久保彩子（東海大学）
- 2D-1345 気候変動対策と生物多様性保全の両立に向けた政策的・科学的課題
○森田香菜子（森林研究・整備機構 森林総合研究所），松本健一（東洋大学）
- 2D-1400 Does Emissions Trading Scheme Induce Innovation and Carbon Leakage? Evidence from Japan
○呂冠宇（早稲田大学），定行泰甫（成城大学），有村俊秀（早稲田大学）
- 2D-1415 Government Policies Combatting Single-use Plastic Products Pollution in Taiwan
○蔡佩宜，大西暁生（横浜市立大学）

口頭発表 2D-4 「環境浄化」

D会場（Zoom）14：45～16：00

座長：鈴木裕識（岐阜大学）

- 2D-1445 サステナブルレメディエーション手法を用いた鉛表層土壌汚染地での対策手法の検討
○万晟吉，半田千智，深谷亮太，李京，小林剛（横浜国立大学）
- 2D-1500 「発表取り消し」
- 2D-1515 揮発性有機塩素化合物による土壌への長期吸着挙動の粒径分布を考慮した解析の検討
○李京，小林剛（横浜国立大学）
- 2D-1530 牧草地における雑草の判別と持続可能な駆除方法
○松村寛一郎（東京農業大学），脇健太郎，松阪勝利（株式会社丹波屋），
中山卓士（東洋電装株式会社）
- 2D-1545 **【高校活動奨励賞受賞記念講演】**
開発途上国の水質汚染抑制と生活雑排水の浄化
○新田遥加，中居泉穂，寺沢ゆき，佐々木昌虎，掛端博貴，
大坊拓也（青森県立名久井農業高等学校）

ポスター発表（優秀発表賞応募発表を含む）

発表・質疑応答：9月8日（木）13：30～14：30（うち、14：00～14：30は「コアタイム」とします）

※ 発表者は各自のポスター番号の Zoom ブレイクアウトルームにて待機し、参加者への発表、質疑応答を行ってください。

ポスター発表の Zoom 会場は2会場となります。

ご自身の発表番号からご確認ください。

会場①：P-01～P-20

会場②：P-21～P-46

- P-01 陸水域に生息する水生ダニ類相と水質評価Ⅱ
○沢登美海，北出乃愛（山梨英和高校）
- P-02 ウキクサと微生物による水質浄化のための培養方法
○池田遥音，熊谷菜月，高橋栞奈（山梨英和高等学校）
- P-03 家庭用ゲーム機に含まれるリン系難燃剤の実態調査とその使用に伴う経皮曝露量の推定
○西山裕那，石田真穂，徳村雅弘，王斉，雨谷敬史，牧野正和（静岡県立大学）
- P-04 ウォーターサーバーの水中に含まれる有機リン化合物の初期曝露評価
○内田亜美，石田真穂，徳村雅弘，王斉，雨谷敬史，牧野正和（静岡県立大学）
- P-05 **【高校活動奨励賞受賞記念発表】**
アサリのカップリング～密集度と生殖の関係～
○高稲健翔，田上進之介，中原翔（宮崎県立宮崎北高等学校）
- P-06 室内空気中のイソシアネートの濃度およびその潜在的発生源である製品中の濃度調査
○柿本祐奈，王斉，野呂和嗣（静岡県立大学），三宅祐一（横浜国立大学），雨谷敬史（静岡県立大学）
- P-07 有機リン化合物のアセチルコリンエステラーゼ阻害機序に関する研究
○高下泰地，徳村雅弘，牧野正和（静岡県立大学）
- P-08 ペットボトルリサイクル推進のための社会実験
土肥竜之介，○石倉優大，小黒哲寛，柴田大至，白石渉，西川修平，森萌（早稲田大学）
- P-09 理想的なまち・2050 ～ 春日井市におけるケーススタディー ～
○山内梨湖（南山高等学校女子部），星野しずか（愛知県立旭丘高等学校），
足立心愛（国立名古屋大学教育学部附属高等学校）
- P-10 「発表取消し」
- P-11 シリコーンリストバンドを用いたパッシブ法における多環芳香族炭化水素類とそのハロゲン化誘導体の物質存在状態別の捕集速度への影響
○田川瑛梨（横浜国立大学），多田智彦，王斉，雨谷敬史（静岡県立大学），三宅祐一（横浜国立大学）
- P-12 拡散型パッシブサンプラーを用いた揮発性有機化合物の個人曝露評価のためのサンプリングレート推算法の検討
○高橋佑果（横浜国立大学），王斉，雨谷敬史（静岡県立大学），福島靖弘，
鈴木義浩（柴田科学株式会社），三宅祐一（横浜国立大学）
- P-13 撥水スプレー剤に含まれる POPs 関連フッ素化合物の実態調査
○齋藤隼輝（横浜国立大学），王斉（静岡県立大学），松神秀徳（国立環境研究所），
三宅祐一（横浜国立大学）

- P-14 ヒ素置換型ヒドロキシアパタイトを用いた水田土壌中ヒ素不溶化
○古賀朝陽, 徳満敦哉, 高梨啓和, 中島常憲 (鹿児島大学)
- P-15 「発表取り消し」
- P-16 鉄を用いた新たな除去機構による空气中ホルムアルデヒドの除去とその評価
○大森果菜, 徳村雅弘, 牧野正和 (静岡県立大学), 達晃一 (いすゞ自動車株式会社), 三上紗弥香, 榎本剛司 (日本電子株式会社)
- P-17 製品との非接触時における皮膚中残留化学物質の経皮曝露を考慮するためのモデル構築
○石田真穂, 徳村雅弘, 王齊, 雨谷敬史, 牧野正和 (静岡県立大学)
- P-18 脱炭素社会へ向けた技術シーズのシナリオ評価ー吹田市のケーススタディ
○岩崎豊 (大阪大学), 小端拓郎 (東北大学), 淵上ゆかり, 原圭史郎 (大阪大学)
- P-19 東京都・埼玉県の排出量取引におけるカーボンリーケージの動向
○井山智資 (早稲田大学)
- P-20 滞留年数の延長による将来ストックフロー及びCO₂排出量への影響評価ー道路におけるケーススタディー
○藤川奈々, 山下奈穂, 蛭田有希, 白川博章, 谷川寛樹 (名古屋大学)
- P-21 各種酸化法を用いた残留抗菌剤除去における実排水中夾雑物質が処理性能に及ぼす影響評価
○西村有里, 鰐川雅花, 徳村雅弘, 王齊 (静岡県立大学),
HossainAnwar, RaknuzzamanMohammad (ダッカ大学), 雨谷敬史, 牧野正和 (静岡県立大学)
- P-22 光触媒酸化によるバイオガス発電システムから得られる液体肥料の高付加価値化の検討
○澁谷柊介, 徳村雅弘 (静岡県立大学), 矢部光保 (九州大学), 牧野正和 (静岡県立大学)
- P-23 Influences of population aging on household carbon footprint in the U.S.
○王家歆, 重富陽介, 山本裕基 (長崎大学)
- P-24 南京市における消費者のレジ袋使用の特徴
○周月, 加藤尊秋, 二渡了 (北九州市立大学)
- P-25 大学生のコンポストづくりと食品廃棄物に対する考え方: 2ヶ月間追跡調査
○袁博子, 加藤尊秋 (北九州市立大学)
- P-26 保持時間と質量スペクトル類似度による 1466 種半揮発性有害物質の誤同定検証
○清水大佑, 亀屋隆志 (横浜国立大学)
- P-27 GC-MS AIQS-DB 分析を活用した河川水中未規制有機汚染物質のスクリーニング
○根本幸弥, 亀屋隆志 (横浜国立大学)
- P-28 Fe(III)イオンとペクチンによるナノプラスチックの凝集沈殿に関する研究
○小森直哉, 森脇洋, 秋山佳丈 (信州大学)
- P-29 車載用 LiB の将来廃棄量の推計と二次利用の可能性
○渡邊一史 (立命館大学), 橋本征二 (立命館大学)
- P-30 環境リスク懸念物質の GC-CI-MS/MS による分析
○大高悟, 亀屋隆志, 根本幸弥, 寺岡沙紀 (横浜国立大学)
- P-31 洋上風力事業が地域経済に与える影響ー長崎県五島市の事例から
○森基哉 (東京工業大学), 増井利彦, 金森有子 (国立環境研究所), 棟居洋介 (東京工業大学)
- P-32 オフィスビルを対象とした PV・EV・BT 連携の有効性に関する研究
○カオリルトフィア, 松本亨, 藤山淳史 (北九州市立大学)
- P-33 国境炭素税を考慮したグローバル・サプライチェーンネットワーク設計: 日本への影響
○長尾剛樹, 伊集院大将 (電気通信大学), 長沢敬佑 (広島大学), 山田哲男 (電気通信大学)
- P-34 多環芳香族炭化水素類の光増感作用によるポリエチレンの劣化促進効果の評価
○野呂和嗣, 雨谷敬史 (静岡県立大学), 矢吹芳教 (大阪環農水研)
- P-35 中国の環境配慮行動における社会関係資本の役割ーCGSS2010 による分析ー
○夏葉城, 平尾桂子 (上智大学)
- P-36 気候変動適応策優先順位付けのための意思決定分析: システマティックレビュー
○天沼絵理, 藤井実, 中島謙一, 肱岡靖明 (東京大学, 国立環境研究所)

- P-37 ナノマイクロプラスチックの科学的不確実性を伴うリスクに対する法的制御の可能性について
-ナノ領域の廃棄物に関する日本の現状と課題を事例に-
○中山敬太（早稲田大学）
- P-38 アスベスト対策のための指導履歴に基づいた解体工事立入計画の検討
○豊永悟史（熊本県保健環境科学研究所），古澤尚英（熊本県人吉保健所，熊本県宇城保健所），
中島尚哉，山形卓（熊本県環境生活部環境局環境保全課）
- P-39 エシカル消費と関係人口の視点からみたふるさと納税の考察
上村青（神戸大学），大西暁生（横浜市立大学），○田畑智博（神戸大学）
- P-40 再生可能エネルギーが地域経済循環にもたらす影響について
-設備所在地と事業者所在地の関係性からみた分析-
○岩川貴志，金再奎（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）
- P-41 再生可能エネルギーの自然災害発生時の活用可能性について -滋賀県の事例より-
○金再奎，岩川貴志，松井亜紀（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター）
- P-42 インタビュー調査による地方環境研究所の研究成果が行政活用されるための条件の探索
○豊永悟史（熊本県保健環境科学研究所），小原大翼（熊本県保健環境科学研究所，
熊本県環境生活部環境局環境保全課），宮崎康平（熊本県保健環境科学研究所），
古澤尚英（熊本県人吉保健所，熊本県宇城保健所）
- P-43 ツマジロの諸臓器における水銀およびセレン濃度の関係
○丸本倍美，坂本峰至，丸本幸治（国立水俣病総合研究センター）
- P-44 「発表取り消し」
- P-45 「発表取り消し」
- P-46 日々の買物意識が自宅の片づけに与える影響
○吉田綾（国立環境研究所）

企画シンポジウム

【1日目】

シンポジウムー1 9月8日（木） オンライン 9：30 ～ 12：00

「気候変動政策の転換を地域主導で進めるための体制・道具・人材」

オーガナイザー 白井信雄（武蔵野大学）教授

増原直樹（兵庫県立大学）准教授

挨拶：白井信雄（武蔵野大学）教授

趣旨説明：気候の非常事態が露わになるなか、カーボンゼロ社会実現のためには、これまでの政策の体制や道具（方法論）の転換（トランジション）が必要であり、地域で転換の実践をコーディネートする気候変動政策マネジャーの育成と活躍が必要になっている。また、カーボンゼロのための緩和策とともに、適応策についても、地域への影響評価や関連施策の棚卸し段階から、より構造的な適応策に踏み込んだ実装を行う段階となっている。具体的にどのような政策の体制、道具が必要であるか、また緩和策と適応策をあわせて、地域政策を進める気候変動政策マネジャーはどのような仕事を担うべきか、どのように育成すべきか。国内外の地域の事例と試行を共有し、具体的な方策に関する意見交換を行う。

講演者：①「地域の気候変動政策等のマネジメント・コーディネイトの要件」

白井信雄（武蔵野大学）教授

②「オーストリアの気候変動政策のマネジャー制度の特色」

上園昌武（北海学園大学）教授

③「自治体エネルギー政策を支える中間支援組織の体制・機能」

平岡俊一（滋賀県立大学）准教授

④「長野県飯田市におけるエネルギー自治を進める制度の設計と運用」

田中克己（飯田市）課長

⑤「SDGs と脱炭素を両立する地域環境ガバナンス試論」

増原直樹（兵庫県立大学）准教授

総合討論

司会 増原直樹（兵庫県立大学）准教授、白井信雄（武蔵野大学）教授

シンポジウムー2 9月8日(木) オンライン 9:30 ~ 12:00

「わが国の地球温暖化対策の現状と課題」

オーガナイザー 大塚直(早稲田大学)教授

柳憲一郎(明治大学)名誉教授

挨拶: 大塚直(早稲田大学)教授

趣旨説明: わが国の地球温暖化対策の現状と課題について、様々な角度から検討・分析する。2050年のカーボンニュートラルに向けてわが国の地球温暖化対策は待ったなしの状態にあるが、そこには多くの課題が存在する。現在の関連する法状況を確認・分析し、その課題を検討することは極めて重要なことと思われる。シンポジウムは、総論、再生可能エネルギー導入促進と地球温暖化対策推進法、省エネ及び革新的技術開発の現状と課題、気候変動に対する適応、CCUSについて扱う。メンバーは、社会科学、自然科学の研究者、環境省の実務家で構成されており、その点においても独自性がある。

講演者: ①「総論」

大塚直(早稲田大学)教授

②「電力—再生可能エネルギー導入促進と地球温暖化対策推進法」

錦澤滋雄(東京工業大学)准教授

③「省エネ及び革新的技術開発の現状と課題」

小松英司(明治大学)環境法センター

④「適応」

角倉一郎(環境省)

⑤「CCUS」

柳憲一郎(明治大学)名誉教授

総合討論

司会: 大塚直(早稲田大学)教授

シンポジウムー3 9月8日(木) オンライン 9:30 ~ 12:00

学術賞受賞記念シンポジウム

「化学物質の環境モニタリングとリスクの評価・管理手法の今後」

プロジェクト名：化学物質管理戦略研究会共同企画

オーガナイザー 小林 剛（横浜国立大学）准教授
高橋ゆかり（富山国際大学）教授

挨拶：小林剛（横浜国立大学）准教授

趣旨説明：リスク懸念のある化学物質についてライフサイクルを通じて網羅的・体系的に管理する考え方が国際的にも求められている。国内でも化審法や化管法等の化学物質管理関連や大気・水・土壌などの環境媒体別の法制度の中でリスクに基づく管理について議論がされており、事業者によってもリスクに基づく管理が検討されるようになってきている。また近年では、事故・災害時の化学物質管理の必要性や室内汚染に伴う先天異常の懸念など新たな視点での化学物質管理の必要性も指摘されている。本シンポジウムでは、化学物質の環境モニタリング結果などを用いて、いかにリスク評価・管理すればよいか、多様な場面での現状やリスクに基づく管理を行う上での課題、関連の研究事例を紹介していただき、会場からもご意見をいただきながら今後の研究の展望について議論する。

講演者：①「事業所周辺の大気環境リスクの把握と管理」

亀屋隆志（横浜国立大学）教授

②【学術賞受賞記念講演】

「土壌汚染地における化学物質のモニタリングとリスク管理」

小林 剛（横浜国立大学）准教授

③「化学物質流出事故の防災減災に向けた環境社会リスク対応

稗貫峻一（横浜国立大学）IAS 客員准教授

④「室内環境での子どもに配慮した化学物質のモニタリングとリスク管理」

高橋ゆかり（富山国際大学）教授

総合討論

司会：高橋ゆかり（富山国際大学）、小林剛（横浜国立大学）

シンポジウムー4 9月8日(木) オンライン 14:30 ~ 17:00

「環境汚染物質の網羅的分析手法の開発状況」

プロジェクト名: 環境研究総合推進費 5G-2101

「水環境中の要調査項目調査へのターゲットスクリーニング分析の実装」

環境研究総合推進費 SII-4

「ライフサイクル全体での化学物質管理に資する PRTR データの活用方策に関する研究」

環境科学会化学物質管理戦略研究会 の合同企画

オーガナイザー 亀屋隆志(横浜国立大学) 教授
高梨啓和(鹿児島大学) 准教授

挨拶: 亀屋隆志(横浜国立大学) 教授

趣旨説明: 化学物質の包括的な管理手法は世界の潮流となり、化審法の優先評価化学物質や水環境リスクの知見集積が必要な要調査項目、有害大気汚染物質に該当する可能性のある物質、化管法指定物質など、数百種類以上に及ぶ汚染物質の環境リスクが懸念されている。これに対し、近年、汎用あるいは高分解能の質量分析計を用いて化学物質を網羅的に分析しようとする開発研究が環境総合研究推進費をはじめとして採択されている。本シンポジウムでは、環境分野での化学物質の網羅的な質量分析手法の開発・実装研究に先駆的に取り組んできている研究者が集まり、それぞれの手法の開発状況や活用事例について情報発信を行い、課題点や限界と今後の展望などについて議論する。

講演者: ①「GC-EI-MS 自動同定定量 DB (AIQS-DB) 収録物質の拡充」

亀屋隆志(横浜国立大学) 教授

②「ポストキャリブレーション型網羅的探索のための DB 開発状況」

高梨啓和(鹿児島大学) 准教授、中島常憲(鹿児島大学) 准教授、澤井淳(いであ) グループ長、宮本信一(いであ) 副本部長、後藤康之(いであ) 主査研究員、戸田美沙(いであ) 研究員、小久保貴幸(いであ) エキスパートエンジニア、鈴木裕識(岐阜大学) 准教授

③「LC-QToF-MS による簡易・迅速なターゲットスクリーニングのためのデータベース整備状況」

鈴木裕識(岐阜大学) 准教授、尾川裕紀(岐阜大学) 修士課程学生、高沢麻里(埼玉県環境科学国際センター) 研究員、小口正弘(国立環境研究所) 主幹研究員、亀屋隆志(横浜国立大学) 教授、栗栖太(東京大学) 教授

④「LC-HRMS を用いた要調査項目物質のターゲットスクリーニング分析」

栗栖太(東京大学) 教授

総合討論

司会: 亀屋隆志(横浜国立大学) 教授

【2日目】

シンポジウム-5 9月9日（金） オンライン 9:30 ~ 12:00

「地域の脱炭素化：次世代エネルギーと公共調達の観点から考える」

プロジェクト名：環境研究総合推進費

「暗示的炭素価格を踏まえたカーボンプライシングの制度設計：効率性と地域経済間の公平性を目指して」

市村清新技術財団地球環境研究助成

「公共調達のデジタル化によるグリーン調達促進：自治体の脱炭素化」

旭硝子財団研究助成プログラム

「再生可能エネルギー普及に向けた需要・供給サイドの研究：日独比較を通じた経済分析」

科学研究費 22K01503

「自治体のグリーン購入方針—グリーン購入促進効果・グリーン購入の効果との関係性」

オーガナイザー 宮本拓郎（東北学院大学）准教授

有村俊秀（早稲田大学）教授

挨拶：有村俊秀（早稲田大学）教授

趣旨説明：地域の課題解決や魅力向上に向けた脱炭素への取り組みについて、再生可能エネルギーと公共調達の観点から考える。研究者による研究成果やその政策的な含意の報告だけでなく、次世代電力供給に取り組む企業や公共調達のグリーン化を支援する NGO の関係者にも、それらの現状と課題について現場の視点からご報告いただく。本企画を通じて、研究者による分析と現場の視点を融合し、地域の脱炭素化における産学官連携のあり方を模索したい。

講演者：①「最適な地域間潮流がもたらす効果の産業連関分析：地域間次世代エネルギーシステム分析用産業連関表の応用」

鷺津明由（早稲田大学）教授

②「GX プラットフォームによる地域脱炭素の取り組みについて」

岩崎哲（(株)アイ・グリッド・ラボ）取締役 CTO

③「再生可能エネルギー普及における地域コミュニティとの対立とその克服について：日独の事例から」

有村俊秀（早稲田大学）教授

④「地方公共団体のグリーン購入取り組み状況 —調達方針の重要性—」

竹内孝曜（グリーン購入ネットワーク事務局）

⑤「グリーン調達方針による学習効果と家庭での消費行動との関係性」

矢島猶雅（早稲田大学）助教

総合討論

司会：宮本拓郎（東北学院大学）准教授

シンポジウムー6 9月9日(金) オンライン 13:30 ~ 16:00

「脱炭素化に貢献するモビリティ革命のあり方をさぐる」

プロジェクト名: 環境研究総合推進費【1G-2001】

「モビリティ革命が脱炭素化を実現するための条件」

オーガナイザー 加藤博和(名古屋大学) 教授

朴秀日(名古屋大学) 研究員

挨拶: 加藤博和(名古屋大学)

趣旨説明: 近年、CASE と呼ばれる自動車の根本的な変革や、新たなモビリティ・ツールの普及、そして ICT を活用した MaaS 等の交通モード間連携の進展といった「モビリティ革命」とも呼ばれる動きが注目を浴びている。しかし、モビリティ革命が脱炭素化に貢献しうるか否かについて、学術的・客観的な評価検討は不十分である。本シンポジウムでは「モビリティ革命が脱炭素化を実現するためにどのような施策が必要か」について、関連研究の紹介を踏まえ議論する。

講演者: ①「プロジェクト全体紹介」

加藤博和(名古屋大学) 教授

②「交通システムの低炭素性評価の包括的方法論の開発」

森田紘圭(名古屋大学) 客員准教授

朴秀日(名古屋大学) 研究員

③「交通具・エネルギーに関する新技術の低炭素性評価」

井原雄人(早稲田大学スマート社会技術融合研究機構) 研究院客員准教授

④「IT 等交通マネジメントに関する新技術の低炭素性評価」

氏原岳人(岡山大学)

⑤「地域の人口・空間構造の長期変化に関する低炭素性評価」

松橋啓介(国立環境研究所) 室長

総合討論・質疑応答

討論者: 講演者が相互に行う

司会: 加藤博和(名古屋大学) 教授

シンポジウムー7 9月9日（金） オンライン 9：30 ～ 12：00

学術賞受賞記念シンポジウム

「持続可能な未来都市に向けた分析・計画・実装」

プロジェクト名：環境研究総合推進費 1-2003

「地域資源と地域間連携を活用した地域循環共生圏の計画とその社会・経済効果の統合評価に関する研究」

オーガナイザー 松橋啓介（国立環境研究所）室長
原圭史郎（大阪大学）教授

趣旨説明：カーボンニュートラル、SDGs 等の観点から持続可能な未来都市の必要性が認識され、その実現に役立つ分析・計画・実装に関する研究の重要性が増しています。本シンポジウムでは、ゼロカーボンシティ、地域循環共生圏、SDGs 未来都市、フューチャー・デザインの観点から、地域資源の分析、持続可能性目標・指標の検討、将来像と到達シナリオの設計、実装に向けた統合的アプローチ等に関する研究紹介を行い、持続可能な未来都市への転換を加速するために何が必要か、意見交換を行います。

講演者：①【学術賞受賞記念講演】

「持続可能な社会設計に向けたシナリオ評価と社会への反映」

松橋啓介（国立環境研究所）室長

②「フューチャー・デザイン - 実践の方法論と研究課題」

原圭史郎（大阪大学）教授

③「脱炭素未来都市の社会実装研究にむけて」

藤田壮（東京大学）教授

④「エネルギー資源の地域循環を活用した脱炭素地域づくり」

芦名秀一（国立環境研究所）主席研究員

⑤「ストック型社会の構築に向けた地域の建設系物質代謝」

谷川寛樹（名古屋大学）教授

総合討論（モデレーター：藤田壮（東京大学）教授）

司 会：原圭史郎（大阪大学）教授、松橋啓介（国立環境研究所）室長

シンポジウムー8 9月9日(金) オンライン 13:30 ~ 16:00

「PBL としての SDGs 活動：継続的な活動による能力開発の評価手法の検討」

オーガナイザー 杉本卓也（千葉商科大学）准教授

中口毅博（芝浦工業大学）教授

挨拶：杉本卓也（千葉商科大学）准教授

趣旨説明：学生による課外活動には様々な種類があるが、近年では SDGs と関連した活動も行われている。一方で、大学は教育研究機関ということもあり、学生が活動を通じて何を学び、何を身に着けるかといった点も重要となる。

授業としての課題解決型学習（PBL：Project Based Learning）と学生活動の大きな違いの一つは、その期間であると言える。授業は学期毎に区切られることがあるが、学生活動は継続性のあるそれである。学生活動が継続して展開されていくことで、その過程で企画やプロジェクト管理、コミュニケーション能力といった社会人基礎力の修得と実践の機会が複数回確保される。

このシンポジウムでは、学生による継続展開される SDGs 活動を学修機会と捉え、活動を通じた学生の能力開発について議論する。併せて、活動を継続していく過程で修得されていく能力の評価や測定手法についても議論する。

講演者：①「社会貢献活動の実践度からみた課題解決型学習の効果」

中口毅博（芝浦工業大学）教授

②「コロナ禍における環境活動の成果」

竹内彩乃（東邦大学）講師

③「教室断熱化ワークショップの企画運営によるサステナビリティ人材としての能力育成」

杉本卓也（千葉商科大学）准教授

手嶋 進（千葉商科大学）准教授

総合討論

司会：手嶋 進（千葉商科大学）准教授

「多様な学問分野における環境科学研究の最前線」

オーガナイザー 山本佳世子(電気通信大学)教授

岩本茂子(電気通信大学)協力研究員

挨拶: 山本佳世子(電気通信大学)教授

趣旨説明: 環境の重要性が世界的に認識され、多様な学問分野で環境科学研究が行われるようになった。

たとえば、工学分野では建築、土木、都市計画だけではなく情報、機械、電気などの工学諸分野でも環境科学研究が実施されている。また、様々な学問分野の複合分野、融合分野においても、環境科学研究が推進されている。以上のように環境科学研究を行う学問分野の拡大には、環境問題の複雑化・多様化に加え、世界規模での社会的・経済的な変化の影響が大きい。そこで、本シンポジウムでは以上で示した環境問題の特性を考慮し、環境科学研究が近年積極的に推進されるようになった学問分野における環境科学研究の最前線について紹介する。具体的には、本シンポジウムでは、2022 年会場校の電気通信大学の教員による最新の環境科学研究の成果について紹介する。

講演者: ①「カーボンニュートラルに向けたエネルギーインフラパラダイム」

横川慎二(電気通信大学)教授

②「AI 予測最適化手法を用いた窓用透明型太陽電池の設計と開発」

曾我部東馬(電気通信大学)准教授

③「グローバル協働 DX による再生可能エネルギーと国境炭素税の循環サプライチェーン研究と課題」

山田哲男(電気通信大学)教授

④「天然由来資源のみを用いた木質系材料の成形加工技術の開発」

梶川翔平(電気通信大学)准教授

⑤「シミュレーションモデルと時空間解析を用いた環境評価方法の開発」

山本佳世子(電気通信大学)教授

総合討論

司会: 岩本茂子(電気通信大学)協力研究員